

<今日の説教のポイント ローマの信徒への手紙 3章 21～26 節>

聖書を読んで一番驚かされる内容、それは「神の義」です。

## 1 「クリスチャンはよく“罪”とか“救い”とか言うが、分からない」

上のように思われている方も多いでしょう。それは理解できます。聖書に出て来る「罪」や「救い」の意味が普通で考えるのとは違うからです。これらの意味が分かって来ると、聖書が言おうとしていることも分かって来ます。最近、ルワンダ大虐殺後の地元の人々に宣教している方の本を読んで感動しました(説明)。その中の言葉を2つ紹介します。

「私は神の方法を理解し始めました。赦す者は確かに赦しの代価を支払うのです。たとえ赦された者がその代価を知らなかったとしても、です。神は私の赦しの代価を支払って下さいました。私がまだ罪の中にいたとき、キリストは私のために死なれました(ローマ5:8)。キリストは私が赦されるために死なれたのです」。P. 23

「そこで私は、私の村での殺戮を指揮した人々の親戚三人に出会いました。怒りと恨みが溢れて来ました。私の人生に働かれた神の赦しと誠実さが曇っていくのを感じました。しかしその中で、私は静かな、しかしはっきりとした神の霊の声を聞きました。それは、家族を殺害した人々を、私はすでに赦したのだということを思い起こすようにと語りかける声でした。悔い改めて、この三人に謝罪をするようにと、主は私に語られました。彼らは私の家族の殺害者ではなく、キリストにある私の兄弟でした。彼らは血縁的には私の家族を殺した部族の一員です。しかしイエス様の血によって彼らは、それ以上に私に近い者となったのです」。P. 27 『赦された者として赦す』

赦される者が代価を払うのではなく、赦す者が代価を払うというのです！  
そのような赦しに富む神様がおられことを聖書は告げているのです。

## 2 「罪」「救い」の真意は？ 驚くべき「神の義」こそが救いの根拠。

もう今日の箇所を読んで理解できるはず(説明)。聖書では、罪とはこの神様の方を向いて生きていないこと、よって、救いとはこの神様と共に生きていけるようになることを意味しています。ですから、今日の箇所にたくさん出て来る「神の義」とは、神様が罪人を見捨てず、その罪を赦し、方向転換させ、神と共に生きる中に入れて下さること、その全部を考えて、一言で表現している言葉なのです(義を、私たちが考えつく正義とか正しさで考えると分からなくなります)。

世界と私たちを造られた神様がおられる(先週の内容)。しかもこのような義なる神様である。これが聖書から知らされることです。この神様を信じて生きていける。これが「聖書が示す救いの根拠」なのです。